

世界史 授業 No.92 テーマQ.&A.プリント

1. 今日のテーマ・クエスチョン

ホブズとロック、それぞれの社会契約説の違いとは？

2. テーマ・アンサーのキーワードをピックアップ

※教科書該当ページ（P. 148・149）の中から見つけよう！

ヨーロッパの17世紀は、近代天文学と力学の扉をひらいたガリレイや、万有引力の法則をとなえ、近代物理学の基礎をうちたてたニュートンに代表される科学革命の時代であった。またこの時代に、事実の観察を重んじ、そこから一般法則をみちびく経験論を説いたイギリスの（ 1 ）、数学的な論証法をもちいる合理論をうちたてたフランスのデカルトらが、近代哲学への道をひらいた。

自然科学の発達をささえた旺盛な探究心は、やがて人間社会や国家の考察にも向かった。そのよりどころとして自然法と社会契約という考えが深まり、オランダの（ 2 ）は自然法を国家に適用して「国際法の祖」と称せられ、イギリスのホブズとロックは、それぞれ（ 3 ）の絶対性と人民の（ 4 ）という、あい反する結論をみちびきだした。

18世紀には理性を重んじ、社会の偏見を批判する啓蒙思想がフランスで有力となった。モンテスキュー・ヴォルテール・ルソーはその代表的な思想家で、とくにルソーの（ 5 ）の考え方はフランス革命に深い影響をおよぼした。

<記入欄>

- 1 () 2 () 3 ()
4 () 5 ()

3. 今日のテーマ・アンサー（テーマ・クエスチョンの答）確認

※今日のノートに取った内容や2.でピックアップしたキーワードを参考にしよう。

T. Q. 「ホブズとロック、それぞれの社会契約説の違いとは？」

T. A.

『[①]』の著者ホブズは、自然状態を「万人の万人に対する闘い」と考える社会契約説に基づいて、[②]主権で王権の絶対性を主張した。一方『市民政府二論』の著者ロックは、不法な統治への反抗の権利（[③]権）を擁護して同じ社会契約説で[④]主権を保障することを結論とした。

<記入欄>

- ① [] ② [] ③ []
④ []

[] 年 [] H No. [] 氏名 []